

1 主な委員意見

議題	内容
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・各施策について概ね計画通りに進捗しており、この状況を進められたい。 ・良くなった部分とまだまだと感じる部分があるが、試行錯誤しながらでも進めることが大切である。 ・数値目標がないため進捗状況が分かりにくいところがある。
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターの役割・機能の充実はますます必要となってくる。 ・年12回の事例検討会は、情報共有を図るうえで有意義な取り組みだと思う。 ・障害者の高齢化を含め、重度障害者の地域生活維持に関して検討する場の構築は急務であると思われる。
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師配置や、日中活動場所の増加など、方向性としてはニーズに沿った形で進んでいると思う。 ・安心して介護を任せられる医療的ケア児者の支援・充実が喫緊の課題である。 ・設備等、事業所のみで対応が難しい部分については行政の支援も必要と考える。
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究によって人材育成の必要性が示されたことは意義が大きく、今後の取組が望まれる。 ・現在のサビ管育成カリキュラムを補完する部分を明石市単体でいかに行っていくかがポイントであるように思う。 ・事業所内での協議の場等を充実させるとともに、1人1人の利用者と向き合ってほしい。
(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイやレスパイトケアのニーズがあることがよくわかった。 ・一般の事業所が考えるグループホームと重症心身障害者の考えるグループホームは、根本的に違う。 ・体験型に特化したグループホームがあれば良いのか。短期間でも親と離れて生活する体験ができれば、すぐに一人暮らしを始められる人もいるのではないのか。
(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある・なしに関わらずということから、例えば、不登校、ひきこもり、いじめなど、に対しても幅広い呼びかけになる。 ・啓発材料として素晴らしい試みだと思う。障害者を含めたやさしい社会づくりのための環境づくり、雰囲気作りとしては大いに評価できる。 ・対面での市民一人ひとりの自然な助け合いや心配りにどうやってつなげていくのかが、今後の大きな課題だと考える。
(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害に関しては、他障害より理解が進んでいない。より多くの場面での啓発が必要と考える。 ・地域の方々に対する障害理解は目に見える障害に特化したものが多かったため、一定かつ共通のツールで理解啓発が図れるというのは非常に意義が大きい。 ・イラストの利用や、マンガや映画上映を活用した学習機会を検討してはどうか。

2 意見を受けて

明石市第5次障害者計画は、障害者福祉に関係する広範囲にわたる施策について方向性を整理し目標設定を行っています。現在進捗中の内容に対し、各委員から寄せられた様々な意見について、担当部署と共有し、今後の計画内容の充実と各施策を実施していくうえでの参考といたします。

地域生活支援拠点については、明石市基幹相談支援センターを中心とする障害者の地域での生活を支えるための機能の充実に向けて、地域生活において周囲の理解を得ることの重要性や重症心身障害児者等にも対応が可能なグループホームの整備等について意見が出ました。今後も地域自立支援協議会をはじめとする協議の場において、必要な資源の現状と充足に向けて課題等について共有を図ってまいります。

医療的ケア児支援に関しては、兵庫県が行う医療的ケア児支援センター開設等の施策に係る具体的内容や方針の把握に努めるとともに、兵庫県や関係機関等との連携を通じ、ニーズや課題に対する取り組みを進めてまいります。

また、プロジェクトチーム活動後の令和3年1月に設置された施設整備・人材育成室による福祉人材の確保・育成支援や、事業者等で構成する各専門部会が実施する取り組みについても、今回の委員意見を参考とし、障害者への理解促進や地域での生活を支えるための取り組みを進めてまいります。